

第18回日本ジオパーク委員会議事録

日付： 2013年9月24日(火)

時間・場所： 13:00～17:00 経済産業省別館 1階 114会議室

[出席者]

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学 学長

副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

委員(五十音順)

阿部宗広 一般財団法人 自然公園財団 専務理事

伊藤和明 NPO法人 防災情報機構 会長

菊地俊夫 日本地理学会(首都大学東京 教授)

小泉武栄 東京学芸大学 特任教授

高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)

中川和之 日本地震学会(時事通信社 解説委員)

中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)

佃 栄吉 産業技術総合研究所 地質調査総合センター代表

オブザーバー

外務省大臣官房国際文化協力室 外務事務官

文部科学省文部科学省国際統括官付 ユネスコ第三係長

文化庁文化財部記念物課 主任文化財調査官

林野庁国有林野部 経営企画課 課長補佐

林野庁森林整備部 計画課 森林計画官

経済産業省産業技術環境局知的基盤課 課長補佐

国土交通省砂防部砂防計画課地震・火山砂防室 火山対策係長

気象庁地震火山部火山課火山監視・情報センター 火山防災官

環境省自然環境局国立公園課 課長補佐

環境省自然環境局国立公園課 事業係長

門倉俊明

中馬 愛

桂 雄三

永田治久

濱名功太郎

高橋 潔

西谷 諒

今井敏之

吉松重記

速水香奈

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館 館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館 副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館

澤井祐紀 産業技術総合研究所地質標本館

関口 晃 産業技術総合研究所地質標本館

住田達哉 産業技術総合研究所地質標本館

宮内 涉 産業技術総合研究所地質標本館

吉田清香 産業技術総合研究所地質標本館

菅家亜希子 産業技術総合研究所地質標本館

中川明日香 産業技術総合研究所地質標本館

日本ジオパークネットワーク

事務局長 斎藤清一

事務局員 中山由美子

[配布資料]

- 資料1 第17回日本ジオパーク委員会議事録（案）
- 資料2 ジオパーク活動の状況
- 資料3 現地審査報告(阿蘇)
- 資料4 現地審査報告(霧島)
- 資料5 現地審査報告(白山手取川)
- 資料6 現地審査報告(アポイ岳)
- 資料7 現地審査報告(三笠)
- 資料8 現地審査報告(とちぎ鹿追)
- 資料9 現地審査報告(三陸)
- 資料10 現地審査報告(佐渡)
- 資料11 現地審査報告(美祢)
- 資料12 現地審査報告(四国西予)
- 資料13 現地審査報告(おおいた姫島)
- 資料14 現地審査報告(おおいた豊後大野)
- 資料15 現地審査報告(桜島・錦江湾)
- 資料16 現地審査報告(本部半島)
- 資料17 プレス発表資料（案）
- 資料18 審査結果最終報告（案）
- 資料19 日程調整票（再審査現地調査、第19回委員会）
- 資料20 再認定審査及びエリア拡大希望地域の審査

13:00 開会 利光事務局長より開会宣言。

【委員長挨拶】13:01～

・本日は4箇所の世界推薦候補、10箇所の日本新規、及び3箇所の再認定審査のあわせて17箇所について議論。

・2008年から始まってジオパークが増えてきたことは嬉しいが、現地審査等に多くの方に協力いただき事務局運営も大変になっており、今後議論する必要がある。

（プレス関係者退出）

【事務局による資料概要説明と前回議事録の確認】13:03～

（事務局）配布資料の確認。前回議事録について指摘事項等あれば、事務局に連絡を。

【事務局による前回委員会以降の概況説明】13:06～

・地方ごとにジオパークネットワークができてきた。（九州・東北・関東など）

・アジア太平洋ジオパークネットワーク2013シンポジウム（9/7～13）について。参加者600名、日本から100名（中国に次ぐ）、会期中（9/9）に隠岐ジオパークが世界ジオパークに認定。GGNは29カ国100地域となる。日本のジオパーク活動について世界からの関心が高い。

- ・ジオパークのユネスコ正式イニシアティブ化は 11 月のユネスコ総会には提案されない

【GGN申請推薦地域審査 質疑応答（阿蘇、霧島、白山手取川、アポイ岳）】13:09～

（委員長）今年、世界に何ヶ所推薦できるのか？

（渡辺）保留分を含め 1 年に 2 ヶ所。隠岐が認定されたので本年は 2 ヶ所推薦可能。

1. 阿蘇（資料 3）

現地審査員報告（高木）

- ・これまでに 1 度見送り、1 度保留されており、3 月にアクションプラン提出。
- ・従来の観光とは違うジオツーリズムについて、5 コースの設定があり案内パンフもあるが、ジオツアーとしてまだ提供出来ていないので早急な改善要請をした。
- ・他の火山系ジオパークとの差別化について、カルデラ地形とその中に多くの方が生活しているという特徴を売りに出すようになった。火山博物館が中心拠点および事務局として機能している。
- ・阿蘇市以外の活動として、県の支援や周辺自治体の活動が始まっているが、広報が十分でない。
- ・個人レベルだが、カムチャッカ、アポイ岳など様々な地域との交流が見られる。
- ・教育・災害については、高等学校における総合学習があり高く評価できる。
- ・協議会の中心的な人たちがジオパークについてよく理解し、進めていく体制がよく見えるようになってきた。
- ・十分ではない点があるものの、今後の改善も期待できるので推薦したい。

質疑応答

- ・世界の中で他の火山系ジオパークと差別化できる特徴は？ 火山博物館で、カルデラを意識した展示があり、世界のカルデラの紹介もある。カルデラを前面に出した国際シンポジウムを開催の方向。カルデラのジオツアーも取り組んでいる。
- ・説明の仕方として、カルデラをどのようにして前面にだしているか？ 阿蘇の噴火は洞爺湖有珠山や島原半島に比べて古く、草原や集落を含め人の手で環境改善しているところが他と違う。デザインセンターの二つの柱が「ジオパーク」と「草原の保全」で景観の魅力を見せようとしている。
- ・カルデラ地形とカルデラそのものの区別、火砕流台地の認識が不十分。過去の指摘が生かされて、カルデラの外の火砕流台地も紹介されている。
- ・以前は、カルデラ噴火という話は誰もしなかったが、認識を共有してガイドからそれが語られるようになってほしい。
- ・火山の観光客の安全確保について、以前の事故を踏まえて対策がされている印象。
- ・改善点は、次の審査までに改善されるか？ 幾つかの従来の指摘に対して、早急に対応するという回答がある

・ガイド組織間の連携は？ 事務局体制も充実してきて、いろいろなガイド協会を束ねるように動いている。4年前より連携ができては始めている。

2. 霧島（資料4）

現地審査員報告（中田）

- ・結論からいうとまだまだとの印象。
- ・認定後2年半でかなり進歩した。新燃岳噴火の際、ジオパーク推進協議会の連絡網を使って災害対策がスムーズに行われた点は評価できる。霧島市内の全ての学校にジオパークコーナーが作られ、情報交換・教育がされている。地域産の物産が見られるようになってきた。
- ・ガイドが霧島火山の面白さを自分の言葉で説明できない。既存ガイドもジオパークガイドとしての取り組みが遅れており、昨年ようやくガイドの分科会ができた。
- ・予算の丸投げやチェック体制などが、運営組織上の大きな問題。
- ・「えびのエコミュージアムセンター」という展示等も素晴らしい拠点施設ができた。しかしながら観光客の導線が未整備。
- ・ジオサイトに神社・仏閣などの民有地を入れないという方針が、ジオ的・文化的な素材がマッチしたストーリー作りの障害。
- ・民間派遣、都城市職員、専門職員採用等はあるが、事務局内部での情報共有や活動推進の体制作りに遅れ。

質疑応答

- ・世界ジオパークの前に、日本ジオパークとしてさらなる成長が必要と受け取れる。
- ・なぜ今の段階で世界なのか 当初から、推進協議会の方針として3年後出すことになっていた。現地でも時期尚早との声も聞かれた。
- ・3年前は各自治体がバラバラの印象であったが、新燃岳噴火以降、変化は見られるか？
各自治体の市長からそれぞれのジオパークになりたいという思いを聞いた。スタート時よりも温度差はなくなっている。一方で民間（ホテル業など）が関わっていない。

3. 白山手取川（資料5）

現地審査員報告（中川）

- ・結論から言うと時期尚早。
- ・日本ジオパークに認定されてから世界申請するまでが当初からの予定で今回申請。
- ・事務局等、世界申請に取り組み始めて、やりながら無理だと分かっていたようだ。
- ・幕張の公開プレゼンで「水の旅」のみを強調したが、市民に分かりやすく伝える一助になっているなど良い展開もあった。
- ・扇状地以外の場所で拠点を作ったが、なぜそのエリアなのかという理屈が必要。
- ・文化的歴史的背景や川の両岸でのジオパーク活動の展開など考えを整理する必要が

ある。

- ・スタッフは充実しており、今後は期待できる。

質疑応答

- ・ジオパークの素材の内容など、G G Nに出す価値はあるのか？ 素材の価値はある。地殻変動で隆起した上に新しい火山が乗っていて、崩れて大地ができる様子が、パラグライダーによる空中視点で山から海まで一望できる。
- ・山の上から海まで全部入っているという点が珍しい。日本では初めの視点で、世界ジオパークにそのタイプがなければ今後アピールできる。
- ・変動帯より「水の旅」の方が大気・水・土砂・気候変化に結び付けられて良いのでは？ 今は雪、昔は氷の塊が山を崩している。崩れやすいことが、土砂災害とか生活の糧に関連している。日本海側からの水の供給も。
- ・国交省の砂防施設や環境省の施設の、ジオパーク拠点施設としての連携は改善されたか？ ジオパークを意識し説明しているが、まだ別々との印象。

4 . アポイ岳（資料6）

現地審査員報告（佃）

- ・人口 6000 人の 1 つの自治体がやっていて、既存の観光業があるわけではない。
- ・カンラン岩が間近に見え、学術的な拠点となっている。
- ・植物保全など 15 年間取り組んでいる。
- ・住民一体の意識が高くジオパークをやりたい一方で、資金的には難しい。
- ・ビジターセンターができ、地質系学芸員新たに採用、英語ができる方もジオパーク活動にかかわるなど、これで世界に出せるとの判断。
- ・教育活動・地域の参画を様々な地元の企業が応援。最近海からのジオツアー開発のために船を調達する住民も。
- ・小学校跡地を利用した新たな研究施設もできた。研究支援センターでは、安価で宿泊できるなど学術サポートに重要な貢献。
- ・超一流の昆布がなぜ取れるのか、北大と包括研究を結んで実施中。
- ・アポイ岳登山が最大のジオツアーであるが、石の説明がやや弱い。
- ・海から地形で、段丘の発達や地殻変動を見るツアーは、まだ開発途上。
- ・地元の熱意は強く、この点から見れば推薦しても良い。

質疑応答

- ・英語での説明は？ そういう設備は、看板等も含めてまだまだ。
- ・再認定審査ではイエローに近かったとの印象、どれほど大幅に改善されたのか？ 看板が全て良くないとか、アポイ岳ファンクラブがジオパーク的な説明をやりたくない等の問題 ファンクラブのガイドについては、進捗状況を確認できなかった。ビジターセンターでの説明は良く勉強されていた。看板はまだ進んでいない。

・個人的にお客として見に行ったが、ガイドの説明も看板も良くない。植物も名前と「珍しい」だけの話でより大きな視点の話はない。カンラン岩の分布や割れ方に応じて植物の分布が影響を受けていることなどアドバイスした。そこができてくると世界申請もあるが、時期尚早。植物ガイドと地質ガイドがタイアップしてやると良くなると思うが、連携の重要性を分かっていない。 ジオツーリズムとエコツーリズムのコラボをやるのが今後基本になるであろう。そういう視点でアポイを見ると、現地で互いのガイドの交流ができていない様子は困る。

・ビジターセンターについて「ジオ」「エコ」「人」のパーツをトータルで見せる工夫をお願いしたが。説明としては、パーツをつなげるようなものがあつた。世界を目指すにはアイヌ文化についても展示が必要とアドバイスをした。北前船も大切。

・資源の保全の問題。また北イタリアなどのペリドタイトと同時に審査されると厳しいのでは？ カンラン岩は国のルールに則って採掘している。採掘跡はジオサイトからは外すとの決断。オマーンなどもカンラン岩が有名だが、ユニークさを真剣に感じて欲しい。

【GGN申請推薦地域決定】14:07～

・(委員長)霧島と白山手取川については、時期尚早ということで、阿蘇とアポイ岳に絞って議論を進めて良いか？ 一同異議なし。

・アポイ岳を昨年再審査をした経験からすると、看板もガイドも状況が変わらず、ビジターセンターだけが新しくなっただけでは、世界申請は難しい。前回出来てなかった部分を次の現地審査の方に情報共有できていなかった点が反省。

・ガイドについてはすぐには上手にならない。ハード的な面は、対応できる可能性も。

・日本全体では、ジオより植物で有名。ジオとエコが結びついたら、将来的には可能性はあるが、現時点では難しい。阿蘇の場合はだいぶ良い。湧水や川のことでもジオや人間の活動とともに加えるべき。阿蘇はOKでよい。

・阿蘇を推薦するとして、九州に複数ある火山ジオパークを今後どうするか 1つの島に火山が集中していることも売りになるのでは？ 今後、複数のジオパークを一緒にして一つの世界ジオパークにという指導があるかもしれない。GGNが距離を理由に数を制限しようとしているのは明らか。一方日本から推薦を毎年出し続けることは重要。

・アポイはペリドタイトのみで勝負しようとしているうちは、世界は無理であろう。アイヌ、北前船、植物などそれを結びつける大地の説明ができないと無理。

・阿蘇は、カルデラを見せるという事について、関係者の認識があり動きがはじまっており、看板等も含めて審査までに可能ななという印象。アポイ岳は、植物のガイドの方に地質は難しいという印象を翻せていないなど、難しい。

・(委員長)阿蘇は推薦すべきではないという意見は？ 阿蘇の人は、世界はどのようなものかという意識が無い。GGNの審査で保留の可能性がある (委員長)いろいろなジオ

パークに行くなど、GGNとの交流してもらいたい。

- ・(委員長) 学術顧問に頑張ってもらおうということで阿蘇は推薦。アポイ岳については、今回は見送り、強烈にメッセージを伝える必要がある。その2か所と時期尚早の2か所は、さらに区別してメッセージを伝える必要がある。以上のような結論で良いか？ 異議なし。
- ・アポイはカンラン岩だけで盛り上がっているのではなく、ジオ以外の部分もつなげて語っていく必要がある。(委員長) 繰り返し繰り返し指摘して欲しい。担当者を決めた方が良い。(委員長) 去年と今年で現地審査を担当された方がその役を担っていただけるか？ 了承。

【新規JGN地域審査 質疑応答(三笠、とかち鹿追、三陸、佐渡、美祢)】14:20~

審査前の議論

- ・いくつ今回認定するか気にするのか？ (委員長) 絶対評価で。
- ・認定の際、実績論をいれるか？ (委員長) 申請の受付に当たって審査の方針の変更を伝えていない。今回はこれまでどおりの審査で。
- ・(委員長) 保留についての議論を 保留=再審査なので必要ない 不備を不備というために保留があってもよい 目指す方向が良ければ認定であるし、誤った方向であれば指摘して、保留でなくても良い。クリティカルな問題に対し限られた時間では可否が判断できない時、一旦保留をして確認するしくみとして利用すれば良い。(委員長) 今までは条件をつけて認定というのがあったが、その条件を厳しくするような意味がある。今までの条件付き認定は、現地ではただの認定と扱われていたので、保留の意味はある。(委員長) 個別の議論の中で保留もありうるということですのですすめて良いか？ 異議なし。

1. 三笠(資料7)

現地審査員報告(伊藤)

- ・全体の印象としては、ジオパークに相応しい。
- ・地質・地形・歴史・産業・文化・交通など多様なジオサイト。
- ・アンモナイトのような化石をたくさん産出して、世界的にも高い学術的価値。
- ・原石山という砂泥互層の大露頭でたくさんの化石を産出。原石をダムの堰堤として利用して一億年前と現在が結びついている。
- ・炭鉱の遺構の保全の取り組み。
- ・博物館を中心に学校教育を通じて社会還元。高等学校教育でもジオパークの授業がカリキュラムに。
- ・三笠市が運営主体。観光や教育関係団体と良好な関係。市の総合計画にジオパークが明記。市の企画経済部が運営、博物館が教育・研究活動という役割分担。
- ・住民参加およびジオガイドの技量に個人差がありその養成・組織化・他のジオパークとのガイド交流が課題。

- ・市立博物館が拠点施設、学芸員が常駐し質が高い。鉄道記念館についてはジオとの関連の見せ方に工夫が必要。案内板はジオパークエリアで有ることを示す物が少なく要改善。解説板は分かり易い。文化・歴史系の看板は古いものが残されていて要改善。
- ・山崎ワイナリーのワインが、地域の地形・地質・気候の特性を生かした商品。
- ・英語・中国語・ハングルの案内看板がある。インフォメーション施設やパンフレットには英語しか対応がない。
- ・落石防護柵が設置済み。危険なジオサイトではヘルメットの着用がなされている。ハザードマップ未整備。

質疑応答

- ・市がなぜジオパークに取り組んでいるのか？ 三笠市長が研究者を家に泊めたり、研究に対して理解があることも関係。
- ・住民参加少ないとのことであるが、市の人口は？ 1万人前後。地域へのプライドがあるとの印象。
- ・事務局の推進体制の将来的な維持について 市の中でジオパーク専任が2・3人いて運営を進めている。博物館との役割分担がうまくいっている。
- ・全体としてのストーリーは？ 一億年前の化石群と5000万年前の石炭が不整合で接しているところがあり「一跨ぎ5000万年」と紹介。

2. とかち鹿追（資料8）

現地審査員報告（高木）

- ・「新地球学」という教科書に地元の地学を紹介。教育関係者からジオパーク推進が始まった。プロガイドが教育に携わっている。この教育活動は日本のジオパークの中でも最も先進的。
- ・道の駅を拠点として使いたいとの計画。中身はまだ。案内板・ガイドブック・パンフレットはこれから。案内板は視察後に計画が提出され、然別では、ナキウサギ保全のため案内板は出さない。
- ・然別エリアは、年間2万人の観光客。氷の遊具など冬のメニューも充実。鹿追のガイド体制はこれから。然別と鹿追を結びつけるテーマもまだまだ。十勝三叉カルデラの火砕流堆積物などジオサイトの整備がされるのか曖昧。
- ・かなり遅れている部分と進んでいる部分が共存しており、現地審査員としては推薦したいが、保留が導入されるなら保留の考え方もある。

質疑応答

- ・問題を指摘すれば対応できるということか？ 学術支援の方が責任をもって対応してくれるだろう。
- ・然別湖でなく「鹿追」がピンと来ない。氷室がある。じゃがいも貯蔵で利用。農耕・牧畜が盛んで、糞尿のメタンリサイクルシステムがある。資料館があるが、ジオ

の説明が不十分。 自然エネルギーということで冷たいものを利用することは良い。

・事務局体制は？誰が課題を進めていくのか？ 町長がアイディアマンで、事務局としては、町長以下教育関係の人が全体として進めるという感触。

・鹿追と然別との結びつきは？然別のアピール点は？地元の人はどう面白さを伝えているのか？ 然別の単成火山群による岩塊斜面で然別湖ができ、オショロコマの進化に影響。岩塊斜面に風穴・氷穴があり、水ゴケ・ナキウサギなど生態との絡みが強い。

・寒さを売りにした点は良いが、少し弱い。永久凍土が見つかっていないが、自然の露頭ではなく、掘って見せたほうが良い ソリフラクションやインボリューションが見つかるとうい。

3 . 三陸（資料9）

現地審査員報告（菊地）

・八戸から気仙沼の南北に長いジオパーク。海溝型地震・内陸地震および隆起・沈降でできたリアス式海岸や河岸段丘、5億年以上におよぶ地層や岩石・化石が見れる。

・明治以降の地震や災害の遺構・歴史や生活とのかかわりが特徴。前回の地震で被害の少ない地域でその理由をガイドが説明できる。災害とジオを結びつけている。

・審査員としてはジオパークとして推薦したい。

・3県にまたがる細長いジオパークのため各地域の連携にむらがある。三陸全体をとおしてのアピールが弱い。三陸復興国立公園の潮風トレイルとジオパークとの連携の計画がある。県・市町村・国・住民が一体となって活動が行われている。

質疑応答

・NHK「あまちゃん」の特別番組でもジオパークが取り上げられ、視聴率も高かったらしい。 認定されたかのような放送だったので気をつけるべき。

・先の地震の災害遺構が、次々と失われている。現地で生活する人の感情もあるがジオサイトとして残すべき。 ジオパークの範囲外では、決壊した堤防を残す計画も。

・災害の面が表にでていますが、それがなかったら、ジオパークとしては、ジオサイトもまだまだで、運営上もエリア内連携など問題も多い。復興枠があるなら推せる。

・宮古市の挨拶で、特徴を発信するという意味で、被災地の三陸に住んでいることを世界にも地域の当事者にも発信したいとのこと。ネットワークの価値を理解している。

エリア内連携不足は、現地も理解していて、職員の採用や連絡網の充実など工夫をしようとしている。震災以外では、「鉄」を意識。

・リアス式海岸の成因の説明が必要。硬い火成岩があり、過去の火山フロント。 ガイドツアーでは、その成因の説明がある。岩手県立大学の先生が学術をバックアップ。

縄文海進の結果で、長期的には隆起傾向。昔は沈降と説明していた。

4 . 佐渡（資料10）

・評価者が今回欠席（委員長）事前に報告書を読んでいただいていると思う。特に意見がなければ次。

5. 美祢（資料11）

現地審査員報告（佃）

- ・典型的トップダウン型のジオパーク。
- ・白・黒・赤がキャッチフレーズ。白の秋吉台はエコツーリズムがあってジオの要素も。黒の無煙炭時代は、無煙炭露頭や開発の歴史・豊富など素材は良いが、活用されておらず面白さが伝わらない。赤の銅は、日本一古い銅鉱山・科学的にも証明された大仏への利用・大量の木簡が存在しその保存状態と銅の関わりなど地域で一番面白い。
- ・秋吉台の博物館が古い。山口大との包括連携が、進んでいない。
- ・秋芳台・秋芳洞と美祢の炭鉱部分では、学術的なフォローが必要。
- ・事務局体制は整って来ている。学術関係団体との連携の確認ができれば、推薦しても良い。保留の際もそこが認定のポイント。

質疑応答

- ・白黒赤がバラバラとの印象。大学との連携は、美祢市が書いたストーリーの中で協力をお願いするのでよいのか？ 大学との連携は何とかしたいと思いが伝わる。必ずしもバラバラでなくて、それぞれの地域に資源があり生活にどう繋がっているかを示したい意志がある。
- ・トップダウンだと、方向転換ができにくい。サイエンスのアドバイスが活かされるよう変わっていきけるのか？ 事務局として、中間でドライブする人が育っていない。ちゃんと指導できる人がいれば、変わる。今回の報告では、見通しが良くない？ トップダウンを受けて引っ張る人材がいらない？ 事務局の中には、いない。事務局と博物館で若い人の採用はある。
- ・博物館などで石灰岩と二酸化炭素の吸収をつなげてグローバルな気候変動との関わりを示すべき。説明は古典的だった。地球環境問題としては捉えていない。（委員長）どの地域も石灰岩と地球環境問題をつなげて話すべき。
- ・ガイドの説明はどのようなものか？化石そのものより地形が中心？ エコ関係者に限らず地域の人がドリーネという言葉を使っている。大きな河川が成長しないので災害に強いことを地元は分かっているが、ストーリーになっていない。作物との関係や景観保存などしっかりやっている。

15：27～15：35 休憩

【新規JGN地域審査 質疑応答

（四国西予、おおいた姫島、おおいた豊後大野、桜島・錦江湾、本部半島）】15：35～

6. 四国西予（資料12）

現地審査員報告（中川）

- ・審査員としては認定したいが課題は多くある。
- ・黒瀬川構造帯に関してもともと活動している方がいる。空港の到着ロビーでも宣伝。地元の環境業者もジオパークをやろうとしていて市も援助。
- ・分かりにくい事を優しく説明することは、まだできていない。看板もまだ。何らかの形でストーリーをつなげて話したいという意識を感じる。事務局の中心人物もサイエンスを学んだ人で期待される。看板が古く、今は使われない用語が地域で浸透しているが、難しい地質用語のみに固執せずジオパークを楽しみたいという思いもある。
- ・産廃関係でジオパークの活動に反対という人いるが、手続き的には問題は見当たらない。

質疑応答

- ・南海地震巨大地震に関する防災対策は？ 海岸に看板等の表示は見当たらなかった。
- ・高知でのジオパークを断念した地域と西予とで何か関係は？ 特に無い。
- ・地質のストーリー作りが難しそう まさにそこで苦労している。分からないというところが、面白く、それを楽しむ地域力がある。トップダウンではない。
- ・高知側に大きな博物館がある。できるなら、山を超えてエリアを伸ばしてほしい。四国全体の話でいつか出てくるかも。現在は、まだ。

7. おおいた姫島（資料13）

現地審査員報告（町田）

- ・人口2200人位。自然と社会を含めて一言で言えば「きれいな島」。
- ・輝く黒曜岩の立派な断崖。西日本の縄文時代の遺跡として有名、当時の交流にも使われていた。多数のマール・溶岩ドームがある。
- ・象の化石を含む陸成層や石灰性の層が大きく褶曲、地滑り多発。
- ・生態系としては、アサギマダラ（蝶）が乱舞、原生の照葉樹林が残る。
- ・トンボロや海面すれすれにできたタフリングやマールを埋立て生活に利用。砂州では車海老の養殖が盛んで、清潔にする必要。国東半島との間に1本/時のフェリー。
- ・県が力を入れていて、地質や考古学に詳しい人が協力している。地元はまだジオの知識が薄いけど急速に学んでいる。離島ゆえ専門の担当者を置くのが容易でない。
- ・現在の拠点狭いが、廃校を利用した拠点の計画が進んでいる。
- ・147人のガイド講座受講があるが、まだ力量は未熟。ただし現地審査にも同行し、様々な質問をするなど熱心で前向き。子供もガイド参加。
- ・きれいな島だから、人を魅惑するジオパークになるかも。ジオパーク認定しても良い

質疑応答

・いろいろなタイプの火山をどう説明しているのか？ なぜあそこに火山があるのかは分かっていない。古い火山活動と考えられているが、縄文海進以降の水蒸気爆発などもありそう。

・幕張では、テーマがよく分からないという意見。神秘性を前面に出すとサイエンスではないところに地域が向きかねない。姫島七不思議があり、ジオパーク活動の前からの姫島の売りとなっている伝承。ジオと結びつくものはほとんど無い。ジオで分からない部分を新たな七不思議として売り出せる可能性ある。

・子供たちのガイドの様子は？ 黒曜石で女子中学生がわりと良い説明をした。力量は様々だが、やる気のある子供が大勢いる。

・火山でできた島はおかしいということで、注文をだしていたが、9月はじめに新たな案を提出してきた。かなり進歩があり、解説板も新たな案があがってきた。人の問題ははまだ保留。予算は少ないがプランはある。

質疑応答

・JGCとして狭いエリアを認めるのか本来議論が必要。

・学術サポートとして連携があるのか？事務局の体制は？ しっかりした特別顧問がいる。研究者がぼつぼつとは来る。県の担当者と研究者の連携は良い。事務局体制は今のところトップダウンで、きちんとした体制はできていない。

・縄文海進以降に爆発したなら、活火山では？ 噴出物の年代測定がまだされていない。地形的に古いとは思えない。

8. おおいた豊後大野（資料14）

現地審査員報告（小泉）

・9万年前のASO-4火砕流が侵食された美しい地形。川沿いに柱状節理など見所が多い。

・磨崖仏が20ヶ所くらいある。祈りの文化。テーマが情緒的でよく分からない。

・地質遺産・文化遺産が豊富でさらに日本一の数を誇る石橋もある。丘陵地の水路は、江戸時代のもので高い技術、総延長50km位で棚田にも利用。棚田100選。

・国定公園祖母山、錫の小平鉱山。予想以上に豊かなジオサイト。

・地域コミュニティが残っており神楽や獅子舞など現存。しいたけ、お米、地酒など地場産物多い。

・テーマとストーリーに工夫が必要。素材は豊富。

・市長が現地審査に積極的に参加。施政方針にもジオパーク盛りこむ。県も資金等強力でサポート。ジオパーク活動をきっかけに、県全体の自然環境調査も始まる予定。

・運営事務局として、文化財関係者も含み担当が多くいる。拠点施設が弱い。ジオの職員も採用の方向。これまでは県職員のバックアップでやっていた。

・ガイドは、何段階もあり、上手な人もいる。巡検・学習会・講演会も頻繁に開催。小中学校の教育でも、ジオパークが取り入れられている。

- ・ジオパークとしての説明板がない。間違った対応にならないよう、ジオパーク認定後に取り組む予定。ガイドブックも足りない。3年計画で順次20ヶ所以上整備予定。
- ・全体として一所懸命取り組めていて、ジオパークに相応しい。
- ・阿蘇とはテーマがかなり異なっているので別々で良い。将来的には竹田市との協力も視野。

質疑応答

- ・磨崖仏を見るツアーはあったのか？そのガイドは？ 磨崖仏は20ヶ所ほどある。それぞれの集落ごとに管理する団体があり、個々としてはガイドがある。今後はジオが入るので、これから工夫していこう。
- ・磨崖仏の保全は？ 直接雨が当たらないようになど。見難くはなる。
- ・予算について 今年の予算は1200万円で、解説板にそのうち500万円使う。
- ・これから雇うジオの職員は、どちらの施設に所属？ 市の協議会で雇う。

9. 桜島・錦江湾（資料15）

現地審査員報告（阿部）

- ・テーマは、火山と人と自然のつながり。桜島を中心にカルデラ・海底を含む地形・植生・地場産物・災害遺構・人と文化のつながりに関するジオサイト。
- ・地域の学校で桜島の教育。修学旅行はNPOが受け入れてジオに関するプログラムが動いている。研究については鹿児島大と連携。
- ・運営体制は市が事務局で二つのNPOが実際に動いている。桜島ビジターセンターが拠点。県立博物館や市の水族館とも連携。
- ・ガイドについて、二つのNPOが桜島と市内側で引っ張っている。桜島では、ビジターセンターのガイド、学校をあげての取り組みもある。市内側では「ぶらりまち歩きガイド」200名位。桜島コースでジオ的ガイドがあり、石橋記念公園では小学生の子供ガイドあり。民間クルーズの船長さんも、桜島や始良カルデラのジオについて詳しい。市の納涼船でもジオパークを盛んに宣伝。
- ・ガイドツアー、クルージング、シーカヤック、溶岩プレート、火山灰を使った陶芸、地場産品の販売など活発。看板は、ジオパークの観点からは不十分で現地も認識。
- ・防災について広く理解されている。20の避難港。観光客への誘導サインが不十分に思えたが、現場では、有事の際は住民共々の避難で問題ないとの認識。

質疑応答

- ・領域に錦江湾を入れて周辺の住民は？鹿児島市民が熱心でない。IAVCEIの後、市長と懇談、市民は桜島が大好きなので、認定されたら市民も付いてくるとの印象。錦江湾としては欠けている。霧島市との連携は？ 将来はそれを考えたい。周辺自治体連携について自覚はあるが申請に間に合わない。

10. 本部半島（資料16）

現地審査員報告（中田）

- ・もう少し考えて欲しい、今回は認めないとの結論。
 - ・住民が意識しているような活動がない。学者がリードして作ったジオパーク構想。
 - ・本部半島からのフェリールートに基づいた、非常に点在した他の県まで含む不思議な領域。本部町に事務局。予算は全て本部町がだしており、ジオパークの名称に影響。地質学的にはちゃんとしているが、同一市内にエリア境界があったりする。ヤンバル地域も含めた上で与論島を含めると良いストーリーができるがそうっていない。
 - ・非常に素材は良くて、現在生きている珊瑚と古生代の石灰岩と両方があり、カルスト地形もあり国際的にも面白い。
 - ・世界遺産・今帰仁グスクなど文化的に多彩。ヤンバル地域では昔からの地域的つながりが強く、地元で子供達をきちんと卒業させたいという感覚がある。
 - ・テーマ、組織、エリアの全てを考え直す必要がある。
 - ・教育・ガイドは今始まったばかり。琉球大学のジオサイト研究会が活動している。
 - ・今回の審査の案内も、琉球大学とコンサルの人で行われた。
 - ・伊平屋島では、Uターンの女性が活動の希望があるなど、活用すれば将来期待できる
- 質疑応答

- ・保留ではないのか？ 保留ではない。
- ・事務局体制として、担当者の異動の経緯は？ ちゃんと聞いていないが、本部町の町長、教育長、推進協議会会長がジオパークを理解していない。期間が来たから単に移動させたとのこと。前の担当は非常に協力的で本部の顔であった。
- ・戦争の話は？ 石灰岩の話をするガイドからも戦争の話はよく聞いた。
- ・予算的なものは？ 本部町が年間数百万円。
- ・与論島の町長は熱心？ 教育長がでてきて、「今、じっとジオパークがどういうものか眺めているところです」とのコメント。エリアの教育関係者も同様なコメント。
- ・いいものになりそうな気配は？ 運営体制が良くなって、地元の人が納得出来るテーマと範囲を設定しなおす必要がある。素材はもともと良いものがある。

【10 地域の認定の可否決定】16：31～

・（副委員長）過去は採点の点数をある程度重視していて、初めの2年には不認定があった。一昨年くらいから、委員会から明確な要望を出して認定する例が多くなった。せっかく採点表があるので、点数を活かして可否を明確にしてはどうか？

委員による採点表（4点満点）について、議論を踏まえて各委員が点数を見直し。以降、採点表の平均点をもって議論。

・（委員長）平均点3を超えるところは、認定しても良いか？ 異論なし 三陸については、復興支援の意図もあることを委員長から説明を 了承

・（委員長）平均点2を下回る本部半島は不認定で良いか？ 異論なし

- ・保留を設けるならば、西予、とかち鹿追については、保留では？ 何を持っての判断か？ 1・2年で解決できる見通しがあるかどうか 保留は基本1年間有効か？ もし落ちた場合は、再申請と同じでは？ 地域にとっては、申請書を書く事は非常に労力がかかる。保留の場合、アフターケアが必要。不認定であっても再申請しても良いのか？ 不認定地域も含めフォローは必要で手間は変わらない。（委員長）それでは、不認定地域について、翌年の再申請に特に制限は設けないこととする 異議なし（委員長）保留の有効期間は一年とする 異議なし
- ・美祢については？ 1年では難しい 理由は？ 事務局の本当の体制ができていないことについて1年では無理では。向かう方向が誤っているならば不認定で良いのでは。不認定で目が覚めて、新たな方向の申請書を出すことはかまわない。保留にしてそのまま進むことが良くない。（委員長）美祢も不認定でよいでしょうか？ 異議なし。
- ・姫島は、小さい分だけ運動が進みやすい。今の方向性で良い。（委員長）認定で良いか？ 異議なし。
- ・とかち鹿追は、もともとの活動はあるが、ジオパークとしてやっていない印象 教育を中心としたジオパークがあっても良い 今中心的に動いている人がいなくなったらどうなるかという心配がある 組織を強化するという事で保留で良いと思う（委員長）自治体・その他が深くかかわる組織にして欲しいということで良いか？ 今日の話でも然別に話が偏っている問題が出た。保留に決定。

西予は？ 住民の熱意は室戸並で、窓口もハッキリしていて宿題の出しがいがある。むしろ保留ではなく一年という制限が無い方が良い。住民の熱意の状況は？ ジオパークの集まりがあると動員がなくともかなりの数が集まる 歩いている方向としては間違っていない（委員長）認定で良いか？ 異議なし。

【再認定審査について（恐竜渓谷ふくい勝山、天草御所浦、山陰海岸）】17:02～

- ・資料20の対応が了承された。
- ・（高木）阿蘇のJGN再認定審査は、今回の審査に含まれているとしたい。 異議なし
- ・（中川）GGN加盟地域のJGN再認定審査については、審査員としてJGCから2名派遣してはどうか？ 現地審査員は、審査される立場でもあるので、JGC審査員に遠慮が生ずる。（委員長）人材投入という問題がある。（中川）少なくとも遠慮なく意見と議論を促す必要がある 異議なし

【エリア拡大希望について（山陰海岸、伊豆半島）】17:07～

- ・（渡辺）エリア拡大について、山陰海岸と伊豆半島から希望あり。山陰海岸はこの冬の再認定審査の際に判断してはどうか。伊豆半島をどうするかここで議論をお願いしたい。（委員長）山陰海岸については、了承。伊豆半島については、5%程度の拡大なので現地に文章を出していただいて、メールで回覧し議論することとしたい。 異議なし。（委員長）以前、天草御所浦からもエリア拡大の希望があったが、そちらは拡大範囲が大きいので別途新規申請となる。

【プレス発表資料作成】17:12～

事務局から示された文案をもとに、プレス発表資料を作成。

【次回委員会の日程調整】17:15～

資料 19 をもとに次回委員会日程を 12 月 16 日（月）午後に決定。

【その他】17:17～

・（中川）地域に出された宿題の取り組みについてフォローする仕組みについて隠岐の大会で議論したい。3 人の審査員グループが宿題を出す前に原案を他の委員に見てもらって議論してより良いものにすることを提案する。JGN 新規申請するにあたっての基準についても今後考える必要があり議論したい。

17:22 閉会